

平成 27 年度 聖ドミニコ学園小学校 自己評価

平成 27 年度の学園教育方針「ドミニコとともに真理を求め、自由に生きる」に基づいて、小学校では教育目標として「1. 一人ひとりを大切にする」「2. 自発性を育てる」「3. 豊かなかかわりを育てる」の 3 つを掲げ、取り組んできた。

この 3 つの目標をさらに細分化した 11 の評価細目のうち、9 細目において AB 評価が前年度を上回る結果を得た。自分が特に何を大切にしてきたかを記入する自由記述欄には、「子どもたちのそばにいる」「子どもたちの話を聞く」「子どもたちとの時間をできるだけ多く共有する」などの記述が多くみられ、教員一人ひとりが「寄り添い」を心がけたことがこの結果につながったと思われる。すべての小学校教員が互いに心を合わせて目標の具現化に取り組んだこの実りを分かち合って、次に進んでいきたい。

1. 一人ひとりを大切にする

振り返ると、テロ事件やヨーロッパ難民、シリア空襲、ネパールや台湾の大地震、また東日本大震災から 5 年という節目でもあり、子どもたちも大人も、「いのち」と「尊厳」に向き合うことが確かに多い 1 年だった。「一人ひとりには神から愛されたい『尊い命』であることを、あらゆる機会を通じて自覚させる」ことについて、先生方も教室で、あらゆる機会を捉えて子どもたちとともに考えを深めたことは、学年通信での先生のメッセージや子どもたちの祈りの言葉からも伺える。「一人ひとりが違ってよい」という認識のもと、宗教や民族の違いをもって排除する動きに対して「間違いに気づいてほしい」と祈る子どもの思いを分かち合う先生方の姿勢が、これらの評価につながったと言える。

友達に対して必ずしも適切でない言葉や行動をする児童と日々向き合っている教師も、理念を見失うことなく努力していることを改めて記しておきたい。

2. 自発性を育てる

この目標の 4 細目のうち、「自分で考える力を養い、行動の責任を取ることができる人となるよう助ける」と「子どもの興味や関心、夢を大切に、育てていく」の 2 細目については、高評価が前年度を上回った。反面、「どんな困難にもくじけず、あきらめないで、たくましく生きていく力を育てる」ことについて、前年より低い評価となった。教師が入念な準備を行うことと、児童に任せる場面とのバランスを、小学校現場はいまだ模索中といえる。

「自分からわかろうとする調べ学習、自主学習を促し、達成感を味わわせる」ことについての評価は横ばいであるが、教師がより広い活動範囲での実現を心がけ、模索している。

3. 豊かな関わりを育てる

4 つの細目すべてにおいて前年を上回った。「思いやりの心、人を愛することの大切さを伝えていく」「聖ドミニコに倣って、子ども・保護者との対話を工夫していく」の 2 細目は特に、日頃の朝礼や学級会、また保護者会や個人面談と直結する。今年度から、信徒ではない教師に託された「宗教教育部会」が始まったが、その発信は謙虚さと熱心さを併せ持っており、それを先生方が前向きに受け止めて日常に生かしていることも、この目標の高評価につながっていると思われる。